

2019年6月22-25日にアメリカ合衆国(カリフォルニア州、アナハイム)で開催されたSNMMI 2019 Annual Meetingに参加しました。

この学会は核医学分野の中では最も大きな学会の1つで、世界中から多数の演題登録がされます。そのため、演題採択率が比較的低い学会ですが、今年は運良く採択され参加することができました。

出発日は天候不良による出発遅延がありましたが、日本時間6月22日午後6時頃成田国際空港発、約10時間のフライト後、現地時間6月22日の午前11時頃ロサンゼルス国際空港に無事到着し(日本との時差は-16時間)、空港到着後はSuper Shuttleという乗り合いタクシーサービスを利用し、約1時間後に学会場近くのホテルに到着しました。6月のアナハイムは日本の秋頃のような気候で、街も清潔で治安も良く、大変過ごし易い環境でした。

学会には到着翌日から参加し、脳神経、骨、胸部領域、I-131MIBG治療の教育講演、小児の口頭発表セッション等を聴講しました。教育講演は毎日10テーマ程度の講演が並列して講演されており、1テーマ1部屋で朝から夕方まで多数の講師が入れ替わり講演されていました。1つの部屋で1日聴講すると、基本から応用まで系統的に勉強ができるようになっていました。個人的に印象に残ったものは骨疾患の教育講演で、整形外科領域の変性性疾患や人工関節置換術後の骨シンチグラフィ・SPECTについての話があり、普段はなかなか勉強できない内容ということもあって、大変勉強になりました。また、口頭発表については世界各地から発表があり、日本では使用していない検査薬の発表や同じ検査でも細かい違いがあるなど、国内学会とはまた違った発見がありました。

ポスター発表については心血管領域・基礎系のカテゴリーで登録し、”Colchicine treatment after severe ischemia and reperfusion attenuates myocardial inflammatory response demonstrated by C-14 methionine imaging and subsequent ventricular remodeling”という演題名で発表しました。ポスター発表は臨床・基礎系で8分野に分かれていましたが、今回から各々10人程度がPoster Award候補者にノミネートされ、審査結果発表の前々日に2分間のoral presentationを行うことになっていました。私も候補者にノミネートされていたため、ポスター内容についてoral presentationを行いました。学会最終日の午後にPoster Award(1st、2nd、3rd place)の発表があり、大変幸運なことに2nd placeを受賞することができました。

とある夜にはイブニングセミナーにも参加し、日本では行われていないルテシウム治療についての講演を聴講しました。医師からの発表だけでなく、看護師からの発表もあり、ルテシウム治療の実際や放射線管理区域内での対応等について、実践的なことを学ぶことができました。セミナー前後では食事もあり、たまたま相席した他国医師と料理を堪能しつつ、意見交換も行い、国際学会ならではの雰囲気を楽しむことができました。

今回、初アメリカ、初SNMMI Annual Meeting参加ではありましたが、大変思い出深い学会参加となりました。

